

『深川祭り』 3年に1度の本祭りに期待

「江戸三大祭り」をご存知でしょうか？諸説ありますが、日枝神社の山王祭、神田神社の神田祭、富岡八幡宮の深川祭りが「江戸三大祭り」と言われています。なかでも今回私が紹介したいのは、私の母方の実家があり、小さい頃から参加していた富岡八幡宮の深川祭りです。

寛永19年（1642）に江戸幕府三代将軍家光の長男（のちの家綱）の世嗣祝賀を執りおこなったのが始まりとされ、約370年の歴史を誇るお祭りです。深川のお祭りは「ワッショイ、ワッショイ」の伝統的な掛け声と「水掛け祭」の別名通り、沿道の観衆から担ぎ手に清めの水が浴びせられ、担ぎ手と観衆が一体となって盛り上がるのが特徴で、江戸の粋を今に伝えるお祭りとして、多くの人々によって大切に受け継がれているものです。

子ども神輿もあり、私も小さい頃は担ぎ手の一人として毎年夏の時期には神輿を担いでいました。ちなみに子ども神輿にも容赦なく水は掛けられ、私が担いでいた際には泣いてしまう子もいたほどです。。なお、毎年行われていますが、3年に1度、八幡宮の御鳳輦（ごほうれん）が渡御（とぎよ）を行う年は本祭りと呼ばれ、氏子各町50数基の大神輿が勢揃いしておこなう連合渡御は圧巻です。ちなみに今年2020年は本祭りの年にあたっていて、地元はいつも以上の熱気となります。

例年通りの日程であればオリンピックの閉会式とパラリンピック開会式の間がお祭りの日にあたることもあり、例年以上にインバウンドの観光客が増えるのではないのでしょうか。このような状況下ではありますが、例年同様の盛り上がりとなることを期待しています。

中日新聞社（東京新聞）広告局広告二部 伊藤 元



神輿が特徴の深川祭り。伝統的な「ワッショイ、ワッショイ」という掛け声に、担ぎ手たちの気迫がみなぎる。